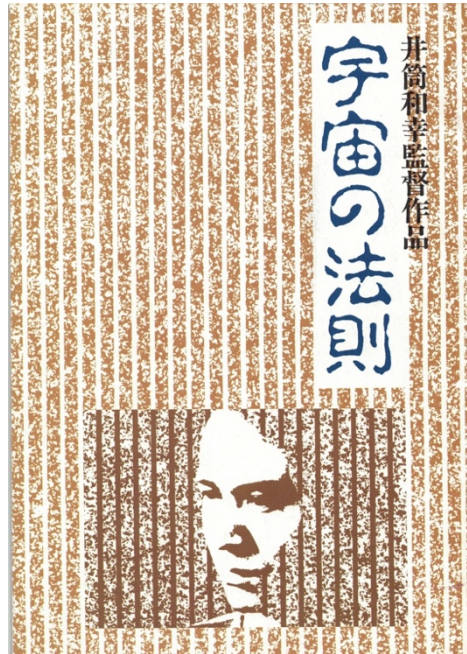


『宇宙の法則』 1990を超えて
(断章“ノコギリヤネのある風景”その2)



▲映画『宇宙の法則』（1990年公開）パンフレット表紙

令和になって初めての正月、松の内の明けた8日、のこぎり二に集う人たちを交えて、30年前に公開された映画『宇宙の法則』を鑑賞する機会を持った。この映画は、ワタシの出身高校の同級生であり、当時、一宮市在住の小島敏弘氏によって企画製作された。完成時点では公開の目処がなかったということらしいが、その後、いくつかの国際映画祭に招待される作品となった。一宮を舞台に、すでに斜陽化久しい織物業を題材にして、“ノコギリヤネ”のもとで展開される家族の物語が描かれる。

実は、個人的には、織物業の行く末とともに驚愕的な結末から、当初、この映画に未来への希望や救いを見出すことができなかった。

時代はバブル崩壊を控えた1980年代の末期。それは、経済、地域、家族など、現在の閉塞的な日本社会に至る大きな転換期でもあった。それがいま、“ノコギリヤネのある風景”を意識するとき、かつて想像できなかった未来の可能性が見えてきたのである。

ノコギリアン（神奈川県藤沢市在住／一宮市今伊勢町出身／時々、のこぎり二に出没）

1. 『宇宙の法則』との出会い

映画『宇宙の法則』は、30年前の1990年1月に公開された。いま、DVDで視聴できる。舞台は、一宮市。大ヒット作とはならなかったが、監督は井筒和幸、キャストとして、主人公の古尾谷雅人（故人）の他、長塚京三、竹中直人、なぎら健壺、柄本明などの名前が連なる。

映画のエンドロールに、企画製作者として小島敏弘氏の名が映し出される。この映画は、製作当時、三十歳の彼の熱い思いから生まれた。彼はワタシの高校時代の同級生である。高校卒業後、一宮で催された学年合同の同窓会で、ほぼ40年ぶりに再開した。

機屋を営む父と対立して東京に出た主人公は、一流デザイナーとして成功していたが、父の急死で、家業を継ぐことを決意し、名声も恋人も捨てて一宮に帰って来る。しかし、織機は既に処分され、工場はカラッポ。そして、母、兄、妹との関係もしっかりこない。紆余曲折を経て、テキスタイルデザインの仕事が上手く廻り始めたように見えたが・・・

映画の終盤、「みんな・・・だいじょうぶかな」という兄嫁のセリフがある。これは、登場人物のみならず、製作スタッフ、小島氏の仲間、未来の同世代の若者たちへのメッセージともいえる。

30年の時間を経て、いま、『宇宙の法則』が問いかけてくる。家族のこと、暮らしのこと、地域のことを。



▲映画『宇宙の法則』（パンフレットからコラージュ。背景は「天の川」Wikipedia）

2. 1990 年という時代

映画は 1990 年 1 月に公開されたが、88 年に制作が始まり年内に完成している。

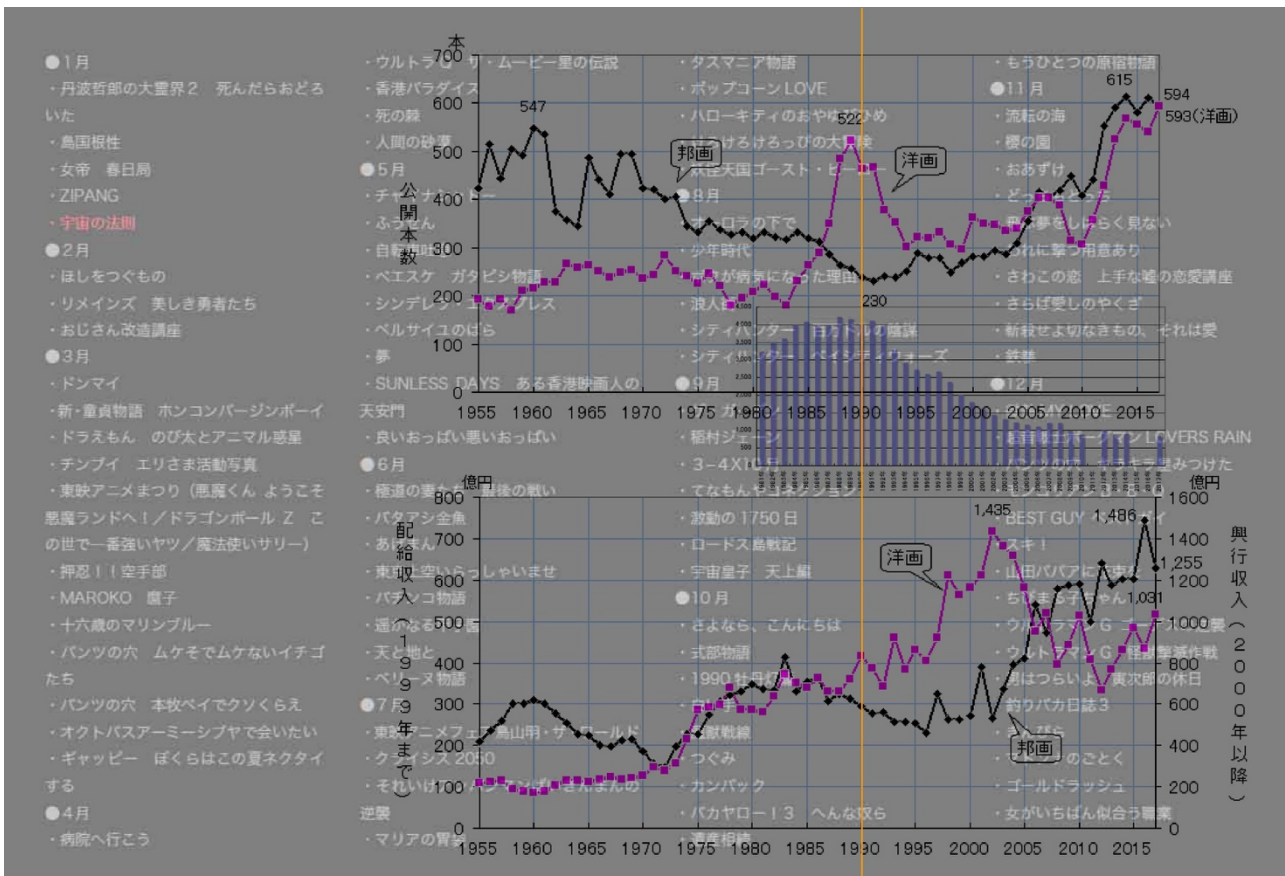
その前年の 1989 年は大変動の年であった。1 月に昭和天皇が亡くなり「昭和」が終わった。続いて、2 月に手塚治虫、4 月に松下幸之助、6 月には美空ひばりが亡くなっている。まさに昭和という一つの時代が終わりを告げる転換点となった。

経済においては、バブルが 91 年に弾け、その後、長く低迷することになる。政治面では、93 年に非自民連立の細川政権が発足し、自民党一党支配の 55 年体制が終焉するも、その後の自社さ連立政権など混迷状態に入っていく。

外に目をやれば、ベルリンの壁が 89 年に崩壊、冷戦構造が終結し、91 年にソ連邦の解体、EU 創設、湾岸戦争へと至る。国内外とも、経済社会の大変動の時代状況を呈していた。

そんな時代に、『宇宙の法則』は製作された。当時、日本映画は低迷時代にあった。公開本数で洋画がピークを迎える一方で、邦画は最低数を記録する。『宇宙の法則』も完成時点で公開の目処がなかった。日本映画は斜陽化の一途を辿っていた。

映画の主題の織物業もまさに斜陽産業である。皮肉にも、90 年当時は、バブル効果で出荷額はピークを迎えている。しかし、映画では、零細企業の現場の父の姿を見て、兄は早くから見切りをつけている。保守的な土地柄でもある。主人公は、それに真正面から立ち向かう。しかし、厳しい現実を前にどうにもならない。さらに、思いがけない未来が待っていた。



▲1990 年公開の邦画／邦画・洋画の公開本数と収入の推移（社会実録データ図録）／一宮市の織維産業出荷額推移

3. ポスト『宇宙の法則』の時代：地域社会（共同体）の壊れていく風景

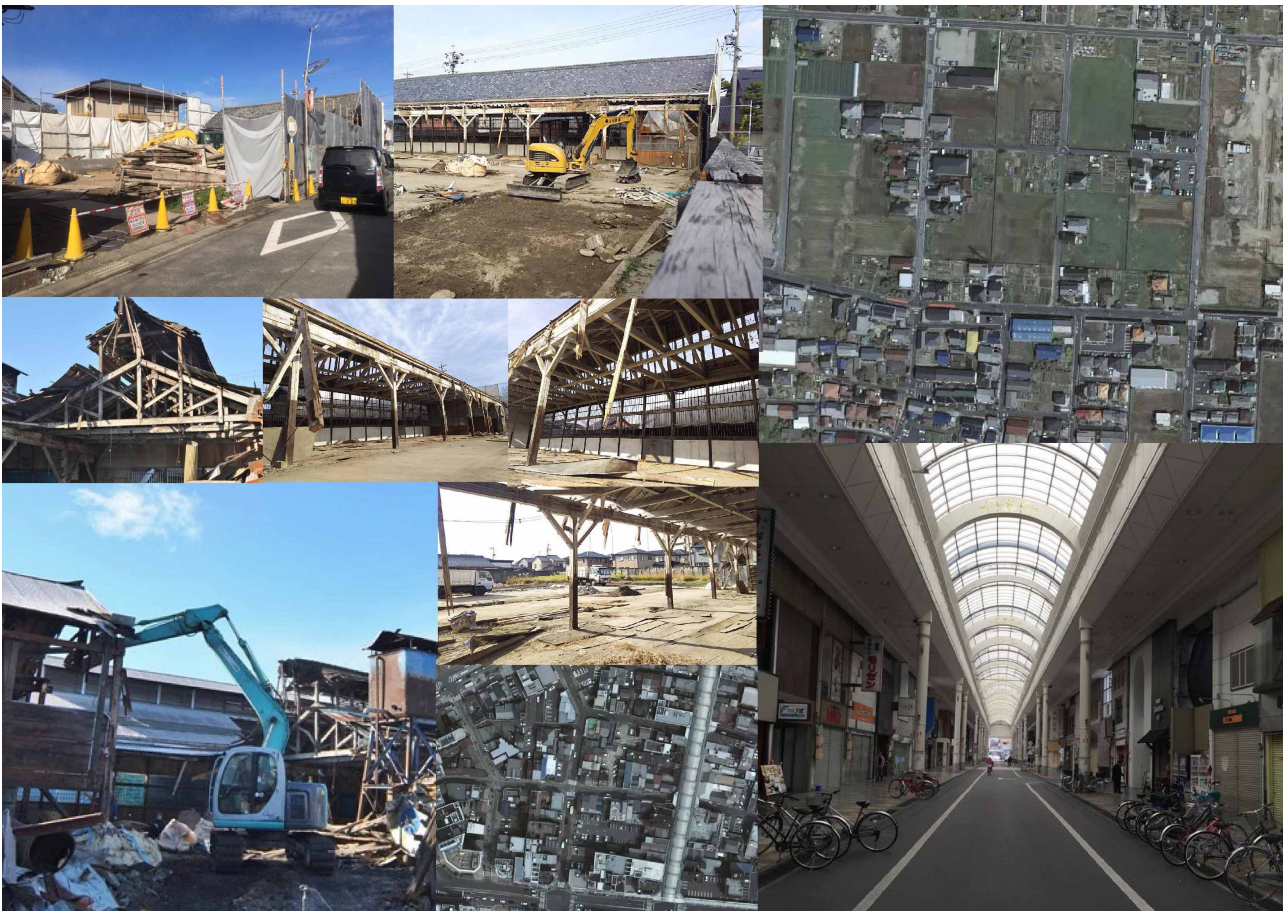
映画では、テキスタイルデザインに可能性を見出した時、突然、主人公の時間は止まってしまう。バブルで浮かれる現実社会へのアイロニーだろうか。そして、翌年91年にバブルが弾けた。この先、日本経済は長期の低迷時代となり、織物業も衰退の一途をたどる。

そこから、バブル期の歪みが露呈していく。特に地方で顕著だった。多くの自治体では、民活、リゾートなどのワードに踊らされ、投入された公共事業が一時は地域経済を潤すが、結果的には大きな負債として残ることになった。

また、都市では、中心部の疲弊が進んだ。一宮の本町通りでも、空き店舗、空き地が増えていく。郊外部では農地が潰されて、無秩序な住宅開発が進行する。核家族化が進み、生業としての地場産業が衰退し、全国で田園風景が消滅していく。のこぎり屋根工場の多くは家族経営である。それが解体される風景は、まさに、家族、地域社会という共同体が壊れていく風景を象徴している。

「みんな・・・大丈夫かな」

映画では、主人公の予期せぬ死の後、残された家族は、また、家族の関係性を取り戻そうとしている。しかし、映画の外の現実社会はどうだったか。農村社会を基盤にした安定した従来の家族、まち、地域社会（共同体）が壊れていく中で、個人は孤立していく一方ではなかったか。



▲地域社会（共同体）の壊れていく風景（空中写真は google map）

4. 未来の予感：“ウツホ（空洞）”の生成する風景

この映画を初めて観たのは、実は、公開から15年ほど後のことである。当時、織物業の衰退、地域社会の疲弊はさらに進行していた。鑑賞後、未来への希望を見出すことができなかった。その想いは、5年前、同窓会で小島氏と再会した時も変わらなかった。

それが、4年前、「のこぎり二」に出会い、この映画を語ることの必要性を感じている。

家業を継ぐ決心をした主人公が実家に帰り、織機がなくなったカラッポの工場を見て愕然とするシーンがある。映画のストーリーを超えて、この場面は大きな意味を持っている。

これは、まさしく「のこぎり二」の原点である。そう、カラッポとなったノコギリヤネ。何物でもないが何物にもなり、すべてが発生する空間。そして孤立した社会の回復を促す。ワタシは、“ウツホ（空洞）”と呼んでいる。この空間から、「のこぎり二」や「スパーブ」が生まれた。

先日、旧川島町に立地する「プラスデザインスタジオ」を訪れる機会があった。面白い場所になる予感がする。いま、尾州各地で、ノコギリヤネに創造的なエネルギーが渦巻いている。

そして、尾州を引っ張っていくテキスタイルの新たなカタチも生まれてくるような気がしている。

現役の工場を含め、たくさんのノコギリヤネが木曽川周辺に分布している。ワタシには、ノコギリヤネで構成される大星群が、「のこぎり二」の窓を通して見えてくる。当初、小島氏が考えた映画のタイトルは「天の川」だったという。ひょっとすると、映画のスタッフたちも、カラッポになったノコギリヤネの窓にそんな希望を描いていたのかもしれない。



▲“ウツホ（空洞）”の生成する風景

○エピローグ

同窓会からほぼ半年後、小島氏から『宇宙の法則』について、直接、話を聴く機会を持った。映画製作のリスク分散を図る製作委員会方式のなかった時代である。資金調達は全て小島氏の責務となった。『宇宙の法則』は、その後の彼や家族の人生を大きく変えることになる。そこには、映画さながらの物語があった。多くの若い人たちにこの映画を観てもらい、彼を交えて、未来を語り合う場を作りたいと考えた。しかし、残念ながら、まだ実現していない。

もう一人、高校時代の同級生が思い出される。その彼は、尾西に生まれ育ち、関西で大学時代を過ごし、東京に出た。一年ほど前、悪性の腫瘍が見つかり、治療しながら仕事を続けたが、令和元年の大晦日の朝、故郷の一宮の病院で亡くなった。不思議なことに、高校時代にはまったく面識がなかったのだが、10年ほど前、仕事を通して知り合った。

産業振興、企業誘致の業界に生きてきた彼は、この地域の織物業の将来やワタシの語るノコギリヤネには懐疑的であり、批判的であった。経済成長をよりどころとする工業社会に生きてきた彼は、この地域には、壊れていく風景とその延長線上の未来しか見ていない。「のこぎり二」に引き合わせてやれなかったことに悔いが残る。

三が日の明けた4日に葬儀があり、その帰り途、彼が生前、帰省するとよく歩いたと言っていた木曽川のほとりに足を伸ばした。故郷を悪しざまに言うことが多かったが、それは彼の本心ではなかったと思う。

いま、木曽川沿いには、若い世代の新しい暮らし方が芽吹きつつあるようだ。木曽川は尾州を産んだ母であり、大地である。そこから織物が生まれた。ここに生まれる新しい暮らし方を、“木曽川リバーサイド的（テキ）スタイル”、あるいは“尾州的（テキ）スタイル”として、注目していきたいと思う。

人はみな死ぬ。時は流れ、新しい時代がやってくる。その繰り返しである。それは、『宇宙の法則』に他ならない。

2020.1.31



▲起から対岸の羽島市を望む（2020.1.4）